

1. 件名：「大間原子力発電所の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（117）」

2. 日時：令和4年1月13日（木）13時25分～14時55分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁 原子力規制部 地震・津波審査部門

岩田安全管理調査官、三井上席安全審査官、佐藤主任安全審査官、中村主任安全審査官、永井主任安全審査官、大井安全審査専門職

同 技術基盤グループ 地震・津波研究部門

呉 地震・津波政策研究官

電源開発株式会社 原子力技術部 原子力技術部 部長 他17名※

※テレビ会議システムによる出席

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・大間原子力発電所 審査会合における指摘事項について（地震・津波関係）
- ・大間原子力発電所 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動のうち内陸地殻内地震について（コメント回答 その1）
- ・大間原子力発電所 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動のうち内陸地殻内地震について（コメント回答 その1）（補足説明資料）
- ・大間原子力発電所 震源を特定せず策定する地震動のうち標準応答スペクトルを考慮した地震動の評価について

時間	自動文字起こし結果
0:00:01	はいお疲れ様です規制庁の岩田です。そうしましたらヒアリングを開始したいと思いますので説明からお願いいたします。
0:00:12	はい。電源開発原子力技術部の高岡でございます。
0:00:16	本日は震源を特定して策定する地震動のうち、昨年 11 月 5 日の審査会合を受けて、内陸地殻内地震の F 14 断層、
0:00:27	奥尻 3 連動の地震動評価のコメント回答について、
0:00:31	それから昨年 10 月に補正申請いたしました、特定せずのうち、氷上藤スペクトルの地震動評価についてのご説明になります。地震動の審査会合審議は、弊社としても早期に進めていただくことを希望しますので、
0:00:46	ぜひとも審査会合の審議を、
0:00:49	よろしくお願いいたします。
0:00:51	初めに配布資料の確認したいと思います。
0:00:56	本日も用意した資料はですね、右上に、
0:00:59	市営 161 から 163 という番号を振った 3 冊。
0:01:04	それとコメントリストでございます。
0:01:07	コメントリストにつきましては、12 月 24 日の津波の審査会合コメントについては、先週の面談結果を反映して、次回のヒアリングの際に、
0:01:17	反映したものをお配りいたします。
0:01:21	それでは資料の内容について、建築担当から順番にご説明いたします。
0:01:29	電源開発阪本でございます。それでは説明に入る前にちょっと進め方の確認をさせていただきます。
0:01:36	そのうち、3 番目の市営 163 の標準応答スペクトルに関する資料ですけども。
0:01:43	こちらは 11 月 1 日のヒアリング市場から、標準法等に係る部分のみを抜粋して、作ったものですから、内容はほとんど変わりません。
0:01:53	したがって、内容の説明は省略省略させていただいて、
0:01:58	変更した部分、具体的には実技像を用いる方について、看護基盤表面におけるは形や、資料構成、この辺が変わっておりますので、
0:02:07	これをご確認いただくということでよろしければ、説明時間はさほどかかりませんので、今回の 3 資料は、一通りすべてご説明してさせていただいてから、
0:02:19	質疑応答という形で進めさせていただきたいんですけども、よろしいでしょうか。はい。それで結構ですお願いいたします。はい、わかりました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:27	それでは新 161、内陸地殻内地震のコメント回答の資料をめぐっていただいて、ローマ数字の 1 ページと 2 ページをご覧ください。
0:02:40	これ 11 月 5 日の審査会合における指摘事項を記載したものでございます。
0:02:46	S A 4 の 5、それと S E O - 6 につきましては、44 段数に係る指摘事項でございまして、S、S S 4 の 5。
0:02:57	は、地震発生層の下限に関するもの。
0:03:00	要するに o n - 6 は、基本ケースの考え方が不確かさの考慮に関する指摘事項になります。
0:03:08	ずっと、S 4 の 7 は、B S 4 - 8 は、奥椎野 3 連動による地震に関する指摘事項でございます。
0:03:16	水温の 7 については国交省による地震モーメントの取り扱いに関する指摘。
0:03:22	鉄道の 8 は、アスペリティ位置や破壊開始点の設定について、通常のレシピの考え方と異なっている。そういったことについてのご説明。
0:03:32	を求められたこと或いは長大断層であることを踏まえて、破壊伝播速度の不確かさを考慮をしたかどうかというようなご指摘になります。
0:03:42	めぐっていただいて、ローマ数字の 2 ページの方は、今日の資料 3 番目の A T S A C 163 ですね、こちらの標準応答に対するコメントですので、
0:03:52	後程資料でご説明いたします。
0:03:56	それではまず内陸地殻内について C 1616 について、担当の小高から、
0:04:02	C 16 層の表情等についてはカワバタの方からご説明いたします。
0:04:07	説明時間は全部合わせて大体 30 分程度というふうに考えております。よろしくをお願いします。
0:04:17	電源開発の小高です。
0:04:19	まず資料 C 161 についてご説明いたします。
0:04:24	今ほど、ご確認がありました各コメントの内容と回答の詳細については資料に沿って順次説明させていただきます。
0:04:34	まず 3 ページの目次をご覧ください。目次の内容は、前回審査会合資料と同様ですか、赤枠で、今回資料の説明範囲を示しております。
0:04:46	4 ページから 2 章。
0:04:49	検討用地震の選定についてです。
0:04:52	5 ページ、6 ページは、前回会合からの再掲となります。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:57	7 ページは、後程ご説明いたしますが、F 14 断層の地震発生層下端が見直しになったことから、等価線源距離について一部修正をしております。
0:05:09	直江藤井 4 断層による地震が敷地に及ぼす影響が大きく、検討用地震に選定される結論については、前回審査会合から変更ございません。
0:05:20	8 ページは、
0:05:22	4 章でご説明しますが、徳重 3 連動による地震の地下部スケーリングを見直したことに伴い、地震規模、海を修正しております。それ以外の変更はございません。
0:05:34	10 ページに、検討用地震のまとめを示しております、こちらも前回審査会合からの変更はございません。
0:05:42	12 ページから、F 14 断層による地震の地震動評価について、コメント回答を踏まえた、前回審査会合からの変更点を中心にご説明したいと思います。
0:05:55	13 ページをご覧ください。
0:05:59	ここでは、コメント No. S 4 の 5 を踏まえ、F 14 断層による地震の地震発生層の下端深さについて、検討しております。
0:06:09	まずグレーの枠の、雑賀檀の地震発生層の設定の記載について、こちらについてコンラッド面や入店深度の評価については、日本全国を対象に検討しており、つって周辺の限られた領域内生産の設定においては、
0:06:27	微小地震の震源は分布、P 波速度構造、
0:06:34	等を、これらを重視して地震発生層を設定し、③のコンラッド面深さ及び④の切り点深度との整合を確認するとして、
0:06:45	前回の審査会合から変更をしております。
0:06:50	続いて 14 ページから 17 ページの、それぞれの評価につきましては、前回審査会合から変更はございません。
0:06:59	なお 18 ページでは、
0:07:02	欄のアクションの 4 ポツ目の最後の記載について、今ほど申し上げました 13 ページの記載の変更を踏まえ、庭球中の評価と、コンラッド面の深さは矛盾しないという表現に適正化をしております。
0:07:17	19 ページも 18 ページと同様に、下段のキャプションの最後の部分の記載について適正化をしております。
0:07:28	20 ページをご覧ください。
0:07:31	事前発生層のまとめを占めています。
0:07:35	ここではキャプションの閾値を爪に示す通り、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:38	F 14 断層による地震の地震発生層上限及び下限深さは、いかん通りして周辺の観測調査結果に基づく評価である。微小地震の震源箇所分布及び、
0:07:50	P 波速度構造を重視して、設定するとし、
0:07:55	地震発生層上限深さは、前回審査会合から変更なく 3 期をとっています。
0:08:01	一方、地震発生層下限深さにつきましては、微小地震は、
0:08:06	震源深さ分布に基づき、15 キロと設定しており、前回審査会合から変更となっております。
0:08:14	今回先ほどご説明した通り、表中の左下の注釈の通り、コンラッド面キュリー点深度の評価については参考扱いとをしております。
0:08:27	以上を踏まえまして、地震発生層は 3 キロから 15 キロに設定をしております。
0:08:35	21 ページから、F 14 断層による地震の震源モデルの設定についてご説明いたします。内容としましては、コメント No. S4 の 6 を踏まえて、
0:08:47	基本ケースの賃金モデルを変更し、不確かさケースを追加しております。
0:08:53	24 ページでは、基本ケースの断層面についてコメントを踏まえまして、下の図に示す通り、調査結果により獲られている断層範囲に対してその中点を基準として、均等に配置し、
0:09:07	その結果 26 ページ。
0:09:09	設定した基本ケースの震源モデル。
0:09:13	お示ししております。
0:09:16	続きまして不確かさについては 27 ページから不確か考慮する不確かさを整理しております。
0:09:23	コメント No. の S E O の 6 を踏まえましてキャプションの通り、リスク論的不確かさとして、断層位置、断層傾斜角、アスペリティの短周期レベルを考慮しし、
0:09:36	偶然的な不確かさとして、アスペリティ位置の不確かさ及び破壊開始点の不確かさを考慮しています。
0:09:45	断層傾斜角の不確かさについては、表中の記載の通り、基本ケースにおいて鉛直 90° の横ずれ断層を評価していることから、
0:09:55	後継者の縦ずれ断層との違いを考慮し、75° に設定しています。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:00	だけ、計算の方法は、保守性の観点から、断層面が敷地に近づく、南傾斜に設定します。
0:10:09	アスペリティの短周期レベルの不確かさについては、前回同様、レシピの1.5本を考慮しております。
0:10:16	それで断層位置の不確かさとアスペリティ位置の不確かさにつきましては、28ページ、次のページの図の通り設定をしております。
0:10:26	断層位置の不確かさは、下段の図の左側の図のように、アスペリティの西味を基準に断層面が敷地に近づくように配置をしております。
0:10:38	アスペリティの位置の不確かさにつきましては、右側の図のように、調査に基づく断層範囲のみ斜字を基準にアスペリティが敷地に近づくように配置をしております。
0:10:51	市町の不確かさを踏まえまして29ページ。
0:10:55	2、F14断層による地震の検討ケース一覧を示しております。
0:11:02	地震動評価は、6ケース実施しております、基本ケースに加えて、不確かさを考慮したケースを設定し、各々の不確かさの敷地に及ぼす影響を確認いたします。
0:11:16	土佐喜田氏になりますが、その地震動評価結果の分析としまして57ページをご覧ください。
0:11:28	今度、17ページでは、認識論的不確かさの断層位置。
0:11:34	断層傾斜角、短周期レベルの不確かさを比較しております、
0:11:40	Aの赤線で示します短周期レベルの不確かさケースが、特に周期2秒以下、
0:11:48	の短周期域で、その他の不確かさケースを概ね包絡しており、敷地に及ぼす影響が支配的な不確かさケースとなることを確認しております。
0:11:59	以上を踏まえまして再度29ページをご覧ください。
0:12:05	今ほどご説明した通り、認識論的不確かさを考慮したケースでは、短周期レベルの不確かさが、
0:12:13	市さんのケースが支配的であることから、認識論的不確かさの代表として、偶然的な不確かさと重畳するとし、偶然的な不確かさであるアスペリティ位置の不確かさは、短周期レベルの不確かさと重畳させたケース。
0:12:29	これは検討ケースの一番下のケース。
0:12:31	となっております。
0:12:36	して続きまして30ページに、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:12:40	新断層位置の不確かさケースの震源モデル図を 31 ページに、断層傾斜角の不確かさケースの震源モデル図、及び、32 ページに、アスペリティ位置のスタッフ近さケース及び、
0:12:54	アスペリティ位置と、短周期レベルの不確かさケースの震源モデル図を示しております。
0:13:01	続け 33 ページに、断層パラメータの設定フロー。
0:13:06	34 から 36 ページに、各ケースの断層パラメータ表を示しております。
0:13:17	37 ページから、
0:13:19	40 ページでは、3.3 節、地震動評価章について説明しており、基本的に前回審査会合からの変更はございませんが、38 ページ。
0:13:32	で、今回設定した基本係数不確かさケースについて、野田徹 2002 による方法が適用可能であることを確認をしております。
0:13:45	41 ページから、地震動の評価結果を示しております。
0:13:50	応答スペクトルに基づく地震の評価では、野田衛藤李 2002 による方法を用いています。
0:13:58	断層傾斜角の不確かさケースの評価は、断層面が敷地に近づき、敷地が N F R D 効果の卓越範囲に含まれることから、
0:14:08	水平成分の長周期側で、このケースより、大きくなっております。
0:14:15	42 ページから 44 ページに、断層モデルを用いた省による地震動評価結果の、基本ケースの、
0:14:25	評価結果を示しております。
0:14:28	45 ページから 47 ページに酸素位置の不確かさケース、48 ページから 50 ページに、断層傾斜角の不確かさケース。
0:14:40	51 ページから 53 ページに、案周期レベルの不確かさケース縁が 54 ページから 56 ページに、アスペリティの不確かさケースの地震動評価結果を示しております。
0:14:54	そして 57 ページにですね先ほどご説明した通り、不確かさを考慮したケースの影響についてこちらで確認をして、
0:15:03	おります。ここで確認した通り短周期レベルが支配的になりますので、3 周期レベルとアスペリティ率と短周期レベルの不確かさケースの地震動評価について続く 58 ページから、
0:15:17	60 ページにその地震動評価結果を示しております。
0:15:24	最後 61 ページに、F 14 断層の地震の断層モデルを用いた手法による、点検討ケースの地震動評価を重ね書きの形で水泳の鉛直動等示しております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:15:39	F 14 断層による地震の地震動評価結果については以上になります。
0:15:44	続いて 62 ページからが、奥尻ファン連動による地震の地震動評価になります。こちらでも F 14 断層による地震と同様に、コメント回答を踏まえた、前回審査会合からの、
0:15:57	変更点を中心にご説明いたします。
0:16:02	77 ページをご覧ください。
0:16:07	調べ、コメント No. f 4-7 を踏まえまして基本ケースの震源モデルの考え方の方針をお客さんに示しています。
0:16:16	キャプションの 2 ポツ目からですね長大な断層に対する震源モデルの設定は、強震動予測レシピにより提案されています。ただし、強震動予測レシピでは、
0:16:28	長大断層の静的応力降下量に関する新たな知見がえられるまでは、
0:16:34	暫定値として、横ずれ断層を対象として導出された値である。
0:16:39	静的応力降下量 3.1MP a を与えることとしています。
0:16:46	一方想定震源は逆断層であることを踏まえ、強震動予測レシピに加えて、長大な逆断層による内陸地殻内地震の知見である。
0:16:56	丹ほか 2015 による方法を比較の上、震源モデルを設定するとしています。
0:17:03	また、国交省ほか 2014 による地震モーメント等を断層面積の関係につきましても、地震モーメントを相対的に保守的に評価できますが、
0:17:14	津波再現解析等でられた M0 s 関係であり、必ずしも地震観測記録を説明するものではないこと、及び、第 3 ページは地震モーメント間周期域に及ぼす影響が小さいことを踏まえまして、
0:17:29	検討用地震の地震動評価には適用しないことといたします。
0:17:34	こちらについては補足説明資料の 5 章で志賀でも説明をいたします。
0:17:41	つつ、
0:17:43	79 ページに、
0:17:46	断層パラメータの設定を示しております。断層パラメータは、今ほど説明した通り、強震動予測レシピ日、こちらが方法
0:17:58	あと檀不破 2015 による、こちらが方法 B としておりまして、二つを比較しまして敷地への影響、各方法が対象とする断層のタイプを踏まえ、断層パラメータの設定方法を選定いたします。
0:18:15	80 ページにそのパラメータの算定のフローを示しておりまして、81 ページに、断層パラメータの比較の表を示しております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:18:25	方法、これを見ますと、方法O Bの短周期レベルは、概ね同程度となっております。
0:18:34	また対象とする断層タイプは方法Aは、第3ページの対象に横ずれ、逆断層という断層タイプによらず用いることができるものの、地震動評価に重要な応力降下量は、
0:18:49	横瀬織田断層を対象として導出された知見となります。
0:18:54	一方、方法Bは、長大な逆断層を対象とした知見であり、当該断層が、長大な逆断層であることを踏まえ、方法便の、
0:19:04	丹ほか2015による方法に基づき、断層パラメーターを設定することとします。
0:19:10	なお壇他2015の概要につきましては、補足説明資料、4章で後程詳しくご説明をしております。
0:19:20	82ページには、アスペリティ1杯伝播速度及び破壊開始点について考え方を示しております。
0:19:29	アスペリティの位置につきましては、コメントNo. S4-8の通り、通常であれば断層上端に配置することが考えられますが、
0:19:40	今回敷地に及ぼす影響を大きくし、影響が大きくなるように、83ページでSも示しますように、各セグメントのアスペリティが、
0:19:51	それぞれ敷地に対して平面的、及び、深さにおいて最も近づく位置に配置している旨の内容を、今回資料に追加をしております。
0:20:02	破壊開始点につきましても、同コメントNo. S4、4-8を踏まえまして、82ページの表2の記載。
0:20:13	続いてまた再開視点123が、縦ずれ成分が卓越する場合の強震動予測レシピの設定に基づき、各アスペリティの下端値ように、今回新たに追加をしております。
0:20:28	また、
0:20:29	破壊開始点456につきましては、84ページ。
0:20:36	基本ケースの震源モデルを示しておりますが、オプションについて左の図の通り、敷地に向かって破壊が進行するように断層上端とし、
0:20:47	また、図のbの方の上の四角書きで記載しておりますが、
0:20:52	二つのセグメントから地震班が同時に敷地に到達する位置に設定する記載を、今回追加をしております。
0:21:02	85ページでは、不確かさの整理をしております。前回審査会合で示した短周期レベルの不確かさ及び断層傾斜角の不確かさに加えまして、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:13	コメントNo. S4-8を踏まえまして、長大断層であることから、宮腰ほか2005による平均的な値伝播速度に標準偏差を考慮した。
0:21:26	0.87Vsを、破壊開始点、
0:21:30	破壊伝播速度の不確かさとして今回追加しております。
0:21:35	86ページをご覧ください。
0:21:40	こちらには検討ケース一覧を示しております。基本ケースの地震規模がMw7.8からMw7.7見え今回変更となっております。
0:21:53	87ページをご覧ください。断層傾斜角の不確かさケースの震源モデルを示しております。
0:22:01	アスペリティの位置や破壊開始点につきましての考え方につきましては、基本ケースと同様となっております。
0:22:10	88ページから、断層パラメータの設定をしのフローを示しております。これに基づき設定したパラメーターを、89ページから92ページに示しております。
0:22:25	93ページから、97ページに、地震動評価の手法について示しておりますが、地震規模が変更になったことに関する記載の適正化のみで内容に変更はございません。
0:22:40	98ページから、地震動評価結果を示します。
0:22:46	98ページに応答スペクトルによる地震動評価結果を示しております。
0:22:53	99ページから101ページに、基本ケースの地震動評価結果を示しております。102ページから104ページに3周期レベル。
0:23:05	の不確かさケースです。
0:23:08	105ページから107ページに、断層傾斜角の不確かさケース、108ページから110ページに、破壊伝播速度の不確かさケースの地震動評価結果を示しております。
0:23:22	111ページに、断層モデルを用いた手法による地震動評価のまとめを示しております。
0:23:29	緑色で示します断層傾斜角の不確かさケースの敷地に与える影響が、
0:23:36	支配的となっております。
0:23:39	113ページから115ページに参考として、
0:23:44	前回会合資料と同様に、府中4断層による地震について、野田、衛藤李2002とそれ以外の距離減衰式地震動評価を比較して、
0:23:55	井野大統領の方法が概ね同程度以上となることを、こちらで書きました。
0:24:01	本店に関する説明は以上になります。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:05	引き続き、足説明資料のNEC162-R00の方策節の説明をいたします。
0:24:16	めくっていただきまして1ページに、
0:24:21	目次をお示ししております。
0:24:24	前回審査会合から追加をしているものにつきましては、4章の檀ほか2015の概要と、5章国交省、
0:24:35	他2014の知見についてです。
0:24:39	内容につきましてまず2ページから4ページの1章については変更ございません。5ページから7ページ。
0:24:47	日照につきまして、前回審査会合から内容は同じですが、地震動評価を、本編の方で例えば見直しているためそれに合わせて7ページの図を変更をしております。
0:25:02	8ページ9ページの3章については変更ございません。
0:25:09	10ページから12ページに、4章丹ほか、
0:25:13	2015の概要を説明しております。
0:25:17	11ページの概要に示す通り、らんほか2015では、長大な逆断層による内陸地殻内地震を対象に、挙手的パラメーターから、
0:25:27	微視的パラメータまで一連のパラメータの設定方法が提案されています。
0:25:33	次に強震動を試算し、
0:25:36	過去の地震の観測記録や既往の距離減衰式と比較して検査結果の整合性が確認。
0:25:44	橋、
0:25:45	結果の整合性が確認をされています。
0:25:49	具体的なパラメータの設定の方法につきましては、下のキャプション。
0:25:54	について示している通りになります。12ページに、これらのこの方法に基づき設定したアスペリティモデルを用いまして、
0:26:06	石井緑川199による、最大加速度と最大速度の距離減衰式や、204年新潟県中越時沖地震です。
0:26:17	208年中国四川地震の観測記録と比較し、それらと整合する結果が出られたとされております。
0:26:26	以上を踏まえまして、奥尻3連動の地震への適用を、12ページの下キャプションで確認をしております。
0:26:35	具体的には想定震源と同様の長大な逆断層を対象に、断層パラメータの設定方法を提案していること、また想定震源と比較的近い規模の、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:26:46	観測記録がデータセットに取り入れられていること、また想定震源と同程度の長さ 100 キロの断層で、既往の距離減衰式と整合的な結果がやられていることを踏まえまして、
0:26:58	こちらが適用可能であることを確認しております。
0:27:02	13 ページから国交省補阿保交渉が 2014 の知見につきまして説明をしております。14 ページをご覧ください。
0:27:14	まず長ほかの知見は、地震モーメントと断層面積の関係面エムゼロ s 関係と記載しておりますが、津波記録の再現解析等から算定した。
0:27:27	平均滑り量 4.5 メートルを踏まえ、
0:27:30	これを踏まえてエムゼロ関係が提案されており、こちらによると、強震動ループレシピの 1.5 倍の地震モーメントがある。
0:27:39	られるものにまとめ、
0:27:42	こちらについて 2 段目のキャプションで、国交省ほか 2014 の知見の地震動評価への適用性について、
0:27:51	このキャプションの中で二つの二つ地震動の保守性の観点を、津波再現解析等でられた i n 0 s 関係の要請の観点から、
0:28:02	それぞれ整理をしております。
0:28:05	これが以上、これらを踏まえまして 3 段目のお客シヨンの 2、まとめとしまして、奥尻 3 連動による地震の地震動評価にあたっては、
0:28:16	国交省ほか 2014 の知見については、地震モーメントを相対的に保守的に評価できるが、
0:28:24	津波再現解析等でやられたエムゼロ s 関係であり、必ずしも地震観測記録を説明するものではないこと、及び、第 3 ステージでは、地震モーメントが短周期域に及ぼす影響は小さいことを踏まえまして、
0:28:39	検討用地震の地震動評価には適用しないものとしております。
0:28:45	5 ページから 19 ページ、6 章については説明内容は、
0:28:51	前回審査会合と同じですが、17 ページの比較の図について今回の、
0:28:57	地震動評価結果を反映したものとなっております。
0:29:00	20 ページから 24 ページに 7 章について、
0:29:06	伝えておりますが、22 ページから 24 ページのパラメータ表。
0:29:12	今回の本編資料とを対応するものに変更しております。
0:29:19	内陸地殻内地震のコメント回答に関するご説明は以上となります。
0:29:28	引き続きまして、
0:29:30	電源開発の河端です。
0:29:32	資料番号 C H 63 についてせ、ご説明いたします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:37	資料番号をM1C H63は、昨年11月1日のヒアリングで説明いたしました。
0:29:44	震源を特定せず策定する地震動についての資料のうち、標準応答スペクトルを考慮した地震動の評価について抜粋したものです。
0:29:54	なお、昨年11月のヒアリングでお話のありました点について、記載の充実、また、よりわかりやすさの観点から、記載の適正化を行っておりますが、基本的な評価内容の変更はございません。
0:30:07	記載の充実としましては、複数の方法により作成した加来沖地震版について、解放基盤表面における地震動を追記したほか、時刻歴は形の最大値の1の追記。
0:30:19	また、最終的な評価結果の最大加速度値の教授桁数が、
0:30:24	補正申請書と異なっている点について説明の追及を行っております。
0:30:29	記載の適正化としましては、みなしAction中の表現等の一部について、よりわかりやすさの観点から行っております。
0:30:37	それでは、昨年11月のヒアリングで説明いたしました内容については、説明を簡略化させていただき、
0:30:44	記載の充実を図った箇所等を中心に説明させていただきます。
0:30:49	まず1ページの目次をご覧ください。
0:30:53	標準応答スペクトルを考慮した地震動の評価に関する内容のみの構成となっております。
0:30:59	また、補足説明資料の1に、
0:31:02	茂木支援班による解放基盤表面における地震動についてを、
0:31:07	参考資料の2に、
0:31:08	2021年10月補正申請における標準応答スペクトルを考慮した地震動による基準地震動を追加しております。
0:31:17	次に、3ページをご覧ください。
0:31:22	評価方針として、検討の手順を示しております。
0:31:25	ホームページについては、前回資料から、よりわかりやすさの観点から負債を充実させておまして、
0:31:32	第5章、第5章の代表班の前提も含め、より丁寧な記載としております。
0:31:37	次に7ページをご覧ください。
0:31:41	中央欄水槽を用いる方法の作成方法を示しております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:46	新保包絡線の設定における等価震源距離 $X e q$ の考え方について、前回資料では、地震発生層を飽和する震源断層の中央に相当する 10 キロメートルとしていましたが、
0:31:58	実際のデータとして、敷地周辺の微小地震の震源深さ分布を参照し、説明性の向上を図っております。
0:32:07	19 ページをご覧ください。
0:32:11	19 ページから 22 ページまでは、今回追加しております。巻末の色になります。
0:32:17	19 ページは、一応欄水槽を用いる方向による解放基盤表面における地震動です。
0:32:25	続きまして、20 ページは、実観測記録位相を用いる方法による解放基盤表面における地震動です。
0:32:33	21 ページをご覧ください。
0:32:36	解放基盤表面における位相の違いによる応答スペクトルの比較になります。
0:32:42	新基盤相当面での比較結果と同様に、解放基盤表面においても、位相の違いによる応答スペクトルの差異は見られません。
0:32:51	続いて、22 ページをご覧ください。
0:32:56	解放基盤表面におけるエネルギースペクトルの比較になります。
0:33:00	支援基盤相当面相当面での比較結果と同様に、解放基盤表面におけるエネルギースペクトルは、一応乱数位相を用いる方法の方が、実観測記録位相を用いる方法より大きい傾向は変わりません。
0:33:16	28 ページの参考資料 2 をご覧ください。
0:33:23	2021 年 10 月補正申請における標準応答スペクトルを考慮した振動による準地震動の説明となります。
0:33:32	地震動としては、17 ページに示している、解放基盤表面における標準応答スペクトルを考慮した地震動等、全く同一のものとなっております。
0:33:41	ただし、キャプションの下に※で記載の通り、基準地震動の最大加速度値の表記は、設置変更許可申請書における基準地震動の表記に合わせて、小数第一位を四捨五入し、当初、
0:33:54	四捨五入した整数としております。
0:33:57	資料の説明は以上になります。
0:34:02	はいありがとうございました。市こちら側から、事実確認の等あればですね、適宜お願いします。
0:34:12	はい。規制庁の佐藤ですけども。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:15	まずF 14 断層なんですけども。
0:34:20	考え方だけねちょっと教えて欲しいんですけども、29 ページですかね。
0:34:26	これ基本ケースそれから不確かさケースの幾つかありますけどもこれについては大体前回の指摘の通りに
0:34:37	おやりになってるんだなっていうのはわかりましたけども。
0:34:40	1 点だけ重畳させるケースが一番最後あってアスペリティの位置と短周期レベルの不確かさケースこれを重畳させるっていうところを、
0:34:50	やっているんですけどもこれ審査会合の時にはですね、するんであれば、
0:34:57	必要性について検討してくださいという言い方をしたんですけども、それで皆さん方は今回やられた。
0:35:05	やられているんですけどもそのやられたその考え方について少しご説明をしていただきたいと思うんですが。
0:35:13	いかがでしょうか。
0:35:19	電源開発中です。
0:35:21	とアスペリティ 1、
0:35:24	都営短周期レベルの不確かさの重畳に関する考え方としましてはまず、27 ページに不確かさの重畳については考え以下の通りをお示し、
0:35:35	コラプションの下です、示してございまして、偶然的な不確かさについては、
0:35:40	事前の把握が困難であるため認識論的不確かさと重畳させて考慮すると、こういった記載が、
0:35:46	考えがありますので、これ、
0:35:49	を踏まえまして、偶然的な不確かさと認識論的不確かさを合わせて、
0:35:56	考慮したものとなっております。また認識論的不確かさにつきましては、
0:36:02	今今回断層位置の不確かさと断層傾斜角、短周期レベルの不確かさ、こちら三つ考慮しておりますが、この地震動評価が 57 ページに示して比較しています通り、
0:36:15	短周期レベルの不確かさが 57 ページの図です。
0:36:22	赤線で示してございまして、周期 2 秒以下の短周期域で支配的な、
0:36:30	概ね包絡している、しており、敷地に及ぼす影響が支配的な不確かさであること、こちら確認しておりますので、
0:36:39	この三種、認識論的不確かさについてはこの 3 周期レベルの不確かさで代表させて、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:46	認識の、偶然的な不確かさと重畳したという考えになっております。以上です。
0:36:55	規制庁佐藤ですけども、
0:36:57	書いてることなんか読んでいただいただけなんだけど。
0:37:01	例えば先行サイトでね原燃の出戸西方断層ってありますけども、ああいって非常にサイトから5キロぐらい近傍って言うてもいいんだけども、
0:37:11	ああいうところはそういった理由でね、スペシャルなケースとして重畳させたっていうふうに資料でも変えてる市債から補正最後の最終補正でもそう書いてるんだけども。
0:37:24	それに類するような考え方をね資料に書いて欲しいなと思ってるわけですよ。
0:37:30	多分普通は多分これや、やらないんだよね、多分重畳って普通は。
0:37:35	だけどこれやりましたっていうんだったらそのやったその心をちゃんと書いて欲しいんですよ。
0:37:42	これこれだから、音調スペシャルとしてこういう重畳も不確かさケースの重畳も考えましたっていうのを、
0:37:51	一言どっかにバシッと書いていただかないと。
0:37:55	7やれって言われたからやりましたみたいなそういう何か私はちょっとコメント回答に聞こえたんですけどね。
0:38:02	我々はそのやれと言ってなくて県、必要性について検討してくださいって申し上げてるので、
0:38:08	そこんところの考え方をちゃんと資料に書いておく必要があるんじゃないですかね。
0:38:13	もうおやりになったのであれば、
0:38:16	どうですか。
0:38:25	電源開発の安田です。基本的に先行齊藤さんのケースも3、当然3黄砂にさせていただいてるんですけども。
0:38:36	今回アスペリティ位置の不確かさについては我々も偶然的な不確かさとして、整理しております。
0:38:44	偶然的二つ加算につきましては、破壊開始点と同様にですね各認識論的不確かさ等重畳させて整理していたかと思います。今回ですね、
0:38:57	不確かさのケースの影響分析、こういった不確かさが資金及ぼす影響が大きいのかっていう観点で、認識論的不確かさと偶然的な不確かさ。
0:39:10	これ初めから重畳せずに、ここに整理をしまして、そうは言いましてもやはり偶然的な不確かさと認識論的不確かさの彫像というのは

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:39:22	これは必要だろうというふうに考えておりました、最終的に認識論的不確かさの、支配的な短周期レベルと、偶然的不確かさの、
0:39:33	アスペリティ値を重畳させた、そういった考え方で整理してございますけれども。
0:39:44	ちょっと繰り返しですけどね。
0:39:48	審査会合で言ったことはその通りなんですけども、そのもう少しその心をちゃんと書いて欲しいという。
0:39:55	なんでその自分たちの言葉で少しこう書いて欲しいなというふうに思ってるわけなんですけどね。
0:40:03	うん。どうですか。
0:40:12	電源開発のオイヌマです。
0:40:16	そうですちょっと繰り返しになってしまうんですけども。
0:40:20	ネット生保ウー
0:40:22	断層等では、
0:40:24	認識論的不確かさについての重畳まで、
0:40:28	考慮して評価しているという位置付けだと思うんですね。で、今回のF14については、そういったところまでは考慮して、
0:40:39	おらずですね、いわゆる、
0:40:41	偶然的不確かさについては認識論的不確かさと調整をさせて検討するという、
0:40:48	位置付けに従って
0:40:49	解析したと。ただですね。ただ、57ページをご覧くださいと、
0:40:58	これ
0:41:00	認識論的不確かさと偶然。
0:41:03	べき不確かさにかかわらず、重ね書きしておりますが、結果的にですね。
0:41:09	反収結果的に、言い方あれですけども、やはりその他主WEBの不確かさというものと、まずそのアスペリティ位置を近づけるっていうものをやはり地震動に対して及ぼす影響が大きいので、
0:41:20	そちらの重畳を
0:41:23	偶然的不確かさではあるものの
0:41:28	なんすかね。
0:41:28	考えられる不確かさの中で、大きいものを重畳した結果になっているということ。
0:41:36	です。はい。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:41:39	ねもう1回聞きますけどね。
0:41:41	そうすると、当然の事としてやったっていうそういう理解。
0:41:44	でいいですか。
0:41:46	はい。スペシャルなことはやっていませんと。当然のこととして認識論的不確かさと。
0:41:52	それから偶然的な不確かさの重畳をしましたというそういう整理でいいですか。
0:41:58	はい、そういう整理です。そうですか。敷地に近いとかその保守性をかんがみてその重畳したっていうわけではなくて、当然やるべきであったと、そういう整理でいいですか。
0:42:08	私はそう聞こえるんですけど。
0:42:11	基本的にそういうことですね。はい。はい。
0:42:15	すいません。今の件についてはナガイから補足的にちょっと聞きたいんですけども、過去の審査実績を見られたと言うのであれば、過去の審査実績とは違うやり方で組み合わせると思うんですけども。
0:42:27	というのは、関西電力、それと中国電力、
0:42:31	こちらの場合、回収系列は、加算重畳させる場合に、
0:42:37	横ずれ断層の場合は1.5倍はやってないと思うんですけども、それを踏まえた上でも1.5倍をやられたということでもよろしいですか。
0:42:53	これはあれだね。0笠間二村です。
0:42:57	そちらについては、
0:43:00	ご指摘の通りですね。はい。
0:43:05	そこ、
0:43:07	踏まえていないと、
0:43:11	評価になっております。
0:43:13	うん。ですのでちょっとこれもね、その1.5倍ってのは多分横ずれでは、初め初めてなんだと思うんだけど。
0:43:22	そこの考え方を何かちゃんと書いて欲しいなと思っているわけなんですよね何か、いやただ1.5倍にしろって言われたからそうしましたっていうふうな、何か私には何かこの資料、今日の資料を聞くとね何かね、もうやっぱり言われたことはやりましたっていう回答ぐらいの何か。
0:43:37	資料にしか私は見えないんだよね。なんかね、皆さんの考え方をちゃんと書いてもらわないと。
0:43:43	コメント回答としてならないんじゃないですかね。なんかそんな気がしますけど。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:43:48	いや、連携は角山です。
0:43:50	ご丁寧なコメントどうもありがとうございます。ご趣旨理解いたしましたので、反映いたします。はい。
0:43:57	これ大事なことだと思います結果はね私は藤高久言わないですけどもやっぱり御社の考え方はねなかなか見えないんですよ。
0:44:05	審査会合で言われました。やりました。
0:44:08	コメント回答でいいましたっていうね何か
0:44:11	なんか小学生の宿題やってるわけではないのでね、ちょっとそこはねちゃんと考え方を変えて欲しいんですよ。
0:44:17	すみませんが、これはちょっともう申し上げ申し伝えておきます。
0:44:21	先に行きます。
0:44:23	富士3連動なんですけどね。これも審査会合で指摘したその回答を府、
0:44:31	私的に府指摘踏まえた回答になってはいるんですけども、84ページね。
0:44:42	84ページでこれ審査の時も、11月の審査の時も指摘しましたけども、
0:44:49	これ断層は、破壊開始点、今回断層下端に置いてるのは一応レシピの考え方に従って踏まえて、下に置いたってのはわかりましたけど。
0:44:59	いや相変わらず上に、今度はそっちを単に置いてるんだよね相変わらず。
0:45:05	ここの説明ってねもう少し説明をしてもらわないとわからないと思うんですけどさっき説明はされたかもしれないですけども、ちょっと私ずっと入ってこなかったんですがね。
0:45:16	ここの思想はどういう思想ですか。
0:45:21	IT電源からのオダカです。
0:45:25	84ページの破壊開始点456についても上端に置いている考えにつきましては、
0:45:33	84ページの左の図の、
0:45:36	赤の四角。
0:45:38	この0間記載しております通り、
0:45:42	破壊開始点456が敷地に向かって破壊が進行する断層上端に配置という形で、赤い敷地に、
0:45:51	赤井が進行するような配置のため、上端に置いております。
0:45:56	また、
0:46:00	状態に置いている考えにつきましては、今説明した通りになります。以上です。
0:46:10	佐藤ですけども、これやっぱりわからないですね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:46:15	わからない。
0:46:16	何を言わんとしてるんですかやっぱりわからないですね。
0:46:20	否定するものではないですけども、
0:46:24	その説明。
0:46:25	説明としてね、やっぱりその、スッと落ちるような説明をして欲しいな と思ってるんですけども。
0:46:32	この断層上端から破壊すると思っている。
0:46:37	ですか。ちょっとわからないここの説明が、
0:46:43	電源開発の小高です。
0:46:45	上端に配置しているのは地震動評価がスピーチに向かって破壊させるこ とでも大きくなって保守的になる。
0:46:55	あろうという考えで上端に配置しているもので、
0:46:59	その状態から、
0:47:02	終わる。
0:47:03	だろうというような考えとは異なります。
0:47:07	以上です。
0:47:09	すみません先ほどの話もそうなんですけども、まずはサイエンティフィ ックに物理的に起き得ることを考えた上で、
0:47:17	その上で工学ジャッジで何かするというのはわかるんですけども。
0:47:22	物を考えてね、上端から赤井するような応力状態にあるんだったら、か たためて破壊できないと思いますよ。
0:47:31	そういうことは
0:47:33	風圧考えたら、
0:47:35	一緒にしてわかると思うんですけども。
0:47:37	大した風圧がないところで破壊できるってことは、
0:47:40	下をまだまだ破壊の上点に達してないと思いますがひずみが食べらんない と思います。
0:47:46	まだ明日P Tの状態におけるはまだわかります。
0:47:50	だけども断層の状態で何もエネルギーを外さないような背景領域がある ところから破壊してさすがに下まで破壊するエネルギーは絶対生み出せ ないと思いますけども。
0:48:00	物理的に成り立つモデルですか。
0:48:09	電源開発のオダカですと、科学的に、
0:48:15	考えるかというところの、少し今、理解いたしました。
0:48:23	記載について

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:25	検討させていただきます。
0:48:27	以上です。
0:48:29	佐藤ですけども、
0:48:32	これやめてくれと言ってるわけではないんですけども。
0:48:35	そう考えるんだったらちゃんと説明をしてくれというふうなことで今申し上げます。それから破壊開始でした。方に置いたのはわかるんですけど他のところのバリエーションってのは考えなかったんですか。
0:48:50	この A s p e r i t y の下にバンバンと三つ置いてますけど、他のところはあまり、その何ていうか今回追加で考えられなかったんですか。
0:48:59	確認さしてください。
0:49:08	電源開発のオダカですと、1人、方に置いたバリエーションにつきましては
0:49:13	前回から 456 で、地震動評価に、
0:49:16	大きくなるようなものを考慮したと考えていたのでパターンでオカのバリエーションというものは考えておりません。
0:49:24	以上です。
0:49:28	大きくなるかどうかってよりもいろいろやってみなきゃ大きくなるかどうかわかんないっていうのもあるよねこれ計算事だからね何かね。
0:49:37	最初からいや大きくなりそうなものはここなんですと、だからここしかやりませんでしたっていうのは何かさっきのその上端の話もそうなんだけど、
0:49:45	説明としてちょっとやっぱ私は腑に落ちないと思っていますと。
0:49:50	実際問題として今、御社のコメント回答資料は
0:49:55	前回に加えてカタンそのアスペリティの下に三つおきましたっていうこれちょっと事実確認ですけども、そういうことで、一応我々理解します。
0:50:05	それから、
0:50:08	あとあれですかね大体不確かさケースとしては、
0:50:12	前回の指摘を踏まえたやり方で、指摘を踏まえての回答になっているというふうなところはわかりました。
0:50:22	それからあとあれですかね標準応答スペクトルの方に行きますけども、
0:50:29	これあれですか、前回説明していただいてあるインピーダンス比による補正ってのはもう聞いてなくなったんですか。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
 発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:41	はいインピーダンス比P O S の名前、電源開発の川畑です。インピーダンス比の補正の検討は、部門に関する検討でしたので今回の内容からは、
0:50:52	含まれていません。そうですか。
0:50:54	ルーム 1 課。
0:50:56	なるほど。
0:50:59	そうするとあれですかね、地域性を考慮したものしか今回はやらない、説明しないってことだね。
0:51:09	うん。
0:51:11	わかりました。
0:51:15	とりあえず私からこんなところですけどもちょっと皆さんのね考え方がまだちょっと
0:51:19	書き足りないんじゃないかなっていうふうに思いました。
0:51:23	それからあとごめんなさいもう一つありましたね補足説明資料で、
0:51:29	今回その長大断層を考えるときの例の国交省 2014 ということでこれも審査会合のとき、もしこれ使うんだったらそれなりの説明をお願いしますということで指摘したんですけども今回、
0:51:43	取り止められた取り下げられたということなんですけども。
0:51:46	これについては、ちょっと補足説明資料の 14 ページに書いてますけども。
0:51:54	ここは結局説明がねちょっと今足りなかったような気がするんだけど。
0:51:58	やっぱり 1 回出したからにはやっぱり引っ込めるという観点ではやっぱりもう少し説明をしてもらわないと。
0:52:05	ちょっと格好つかないんじゃないかなと思うんですけども。
0:52:08	ここもう少し具体的な説明をしてもらえませんか。
0:52:12	或いはこの国交省 2014 で使っている図面とかねもう少しこれ載っけていただいて、
0:52:19	ここをやっぱり何で今回使えませんでしたって結論になったんですかって問われた時に答えられるように、
0:52:26	ちゃんとここを説明する必要があると思うんですけども。
0:52:33	いかがですか。
0:52:36	はい。電源開発の小高ですと記載の充実まで等含めて充実させるウーね。了解いたしました。
0:52:45	以上です。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:47	記載を追記してもらうことにしても、ちょっと現段階で、要すればどう いうことで、取り下げましたっていうことなんですか。
0:52:59	はい。電源開発の小高です。取り下げた理由につきましては端的に申し 上げましているのは、まとめになりますますがその前段のところからちょっ と1度確認させていただきます。まず、
0:53:15	国交省下の地形につきましては、もともと日本海に想定する津波、
0:53:20	モデルの設定にあたり、
0:53:22	全183年日本海中部地震、また南西沖地震に関して、猪津波の、
0:53:28	再現解析や人口記録の再現解析により、震源モデルを推定した知見か ら、滑り量が約4.5メートルで、飽和すると想定し、
0:53:39	協議会で発生するMw7.7以上の地震の地震モーメントと断層面積の関 係が提案されていると。
0:53:46	これによると、強震動SPの長大な断層のM0S関係として用いている 室谷の約1.5倍の地震モーメントから言われますと、
0:53:56	これが知見になりまして、こちらの適用性につきまして、適用につい てを、真ん中のキャプションで説明をしております、
0:54:07	地震動表、地震動の発生の観点からにつきましては、
0:54:12	想定震源がMw7.7との規模が大きく地震動評価にあたっては、レシ ピの第3ステージに相当しますと。
0:54:22	で、
0:54:23	想定震源の地震モーメントの設定にあたっては、国交省オカ2014が提 案するM0s関係は、室谷医師M0S関係よりも相対的に大きいものが設 定されるため、
0:54:35	長周期では保守的な評価となります。
0:54:38	ただ、ふかし第3ステージでは、
0:54:43	地震動評価に大きな影響を及ぼす総量降下量は地震モーメントによらず 一定値となるため、地震モーメントが重要性期待の主要周期、重要施設 の主要周期となる短周期域域に及ぼす影響は小さいと。
0:54:58	いうものがおっしゃる観点から、地震モーメントか。
0:55:01	保守的になるというような観点で、
0:55:04	記載をしております。一方ですね、津波西院解析等では有田委員OS関係 の行政の観点から申し上げますと、檀他の2013では、強震動を生成す る断層と、津波の断層は従来解析方法の違いや、
0:55:21	対象とする周期の違いで、別々のモデルとして扱われてきたとされてお ります。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:55:28	これを踏まえますと、地震動評価を行うにあたっては、津波再現解析等でやられた国交省が、が必ずしも地震観測記録を説明するものではないことから、室谷の地震観測記録に基づき策定された0S関係を適用する方が適切。
0:55:46	であるとお考えあります。
0:55:48	まとめとしまして、以上、奥尻3連動の地震動評価にあたっては、
0:55:54	国交省ほかの知見について、地震モーメントは相対的に保守的、
0:55:59	ですから、松波再現解析でられたMS関係であり、必ずしも地震観測記録を御説明するものではないこと、及び第3ステージで地震モーメントが監修機器に及ぼす影響は小さいことを踏まえて、
0:56:13	検討用地震地震動評価には適用しないという考えで、今回引き下げ、
0:56:19	考えに至ったものになります。
0:56:22	以上です。
0:56:26	ナガイですけども、先ほどの説明のうち、
0:56:29	国交省からの真ん中の枠の地震動姿勢の観点っていう、三つ目の、
0:56:36	ポツってこれ本当ですか。
0:56:40	室谷ウーさんは室谷さんで応力降下量の話をしてそれと、
0:56:45	レシピで採用されて応力降下って異なる値だと思うんですけども。
0:56:52	一定になるっていうのはこれは間違った知見だと思うんですけども、私の記憶の限りでは、
0:56:58	本当でしょうか。
0:57:05	東レンジャー電源開発の小高です。
0:57:08	レシピのバーいま室谷伊井でエムゼロ算定されますが、
0:57:15	岩相全体の基本料効果量としましては、
0:57:20	レジアンヌM a t s u ' u r aによる長大な横ずれ断層を対象に、幾つかの条件で、同意された値これ具体的には3.1MP aで、一定となるので
0:57:32	ことを踏まえてこういった記載をしております。
0:57:38	以上です。
0:57:39	国交省の方はいかがですか国交省もちゃんと応力降下量は確か出してると思うんですけども。
0:57:52	電源開発オイヌマです。ちょっとご質問。
0:57:56	がちゃんと理解できないのかもしれないですけど、第3ステージですので、幅もオーバーしていて、滑りも飽和してますので、
0:58:07	その断層の、その静的な応力降下量自体は一定時だということで、記載したものです。はい。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:58:17	地震モーメントの可能性ならないという意味で書いたんですが。
0:58:22	それは滑り量もそうですよね。
0:58:24	ですが杉井和智Murotaniと国交省、檀大川君って違いますよね。
0:58:33	まさに言うところに檀深尾で適用しなかった理由も書いてないんですけども。
0:58:39	なるほど。そういう意味では、ちょっと検討がまだ甘いんじゃないかというふうに私は感じるんですけども。
0:58:46	団子件、宣伝活動なしダウンを検討しなかった理由っていうのはちょっとどういうことでしょうか。
0:58:54	大井さんがやったことにしてきて、前回、御社は、国交省のスケーリング則を使って壇ほかの残りの部分を適用しましたよね。
0:59:02	はい。これに関して不採用にするという理由はここには書かれてないんですけども。
0:59:08	なるほど。我々ね。了解です。わかりました。
0:59:13	まず前回、国交省のスケーリング則だけを使った後、他の資本を何も考えずに採用してるのかっていうところについてちゃんと、どういう考えなのか教えてくださいと。
0:59:22	言ったところで、
0:59:24	この回答だとね、まず採用しなかったかっていう、今回なぜ採用しないに至ったかという理由が明確じゃないんですよ。
0:59:34	応力降下量が1件で同じなんだったらどっちでもいいんじゃないっていうふうに、
0:59:38	言われたら言われますよね。
0:59:40	それに対して回答になってないですよ。
0:59:43	我々がこれをわー。
0:59:46	変だと言ったところの、
0:59:48	ちゃんとそう、本当に持ってる背景に対する、
0:59:51	答えには達してないんですよ。
0:59:57	我々何でこれをね言ってるかっていうところは、
1:00:00	我々のスタンスと合っていないからで言ってるんですよ。
1:00:06	すみませんちょっと今聞き取れなかったんですけどもう一度お願いできますか。はい。我々がこの点の思想を審査会合において比木説明してくださいって言うっていうのは、我々が持ってるスタンス、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:18	実際、規制委員会とかでも内野管理官が話したような内容も含めて、我々のスタンスと全く合っていないから、どういうことなんですかということを知っているわけですよ。
1:00:29	そこに一致するような回答を今のところいただけてないんですね。
1:00:33	少なくとも策定の1月とか去年の11月に規制委員会で、
1:00:37	説明した内容と一致していない。
1:00:40	そういうところが背景にあってこれを聞いているところです。
1:00:44	それに対して今回国交省のスケーリング術に対して適用しないと。
1:00:48	いうところにしたのに対する理由の回答になってない。
1:00:54	逆に介護のときに使うのであればどういう考えのもとに使うんですかと聞いているので、
1:01:00	採用しないではどういう考えのもとで採用するが不適切だったっていうふうにちゃんと答えて欲しいんですよ。
1:01:07	わかりました。
1:01:11	そういう点はどうなんです。そういう意味では
1:01:14	二つ、該当しなきゃいけないものがあって、そもそも、
1:01:20	前回、
1:01:22	国交省を使ったっていうこと、今回、
1:01:26	使ってない。
1:01:28	ということの理由とあと前回国交省の地震モーメントを使ってそれを、
1:01:34	欄に使ったっていうところを、
1:01:38	一貫してなかったところを、今回、
1:01:42	一貫するように改めたその理由が欠けてるっていうこと。
1:01:46	ですよろしいですかねちょっとまあ、そういうことだと理解したんですけども。はい。
1:01:52	規制庁の岩田ですけれども結論から言うとですね先ほども、誰かしゃべったかもしれませんが、結果こうしましたっていう資料構成にしかなってなくて、我々がどういう観点で何を指摘してそれに対して御社はどのような考え方を持って、このような、
1:02:08	ものに変更してきましたよという、
1:02:10	その変更のプロセスがわからないんですよ。
1:02:13	で、なぜ実皆さんがもともと考えていたようなものをですね設定したかという考え方についてもよくわからないし、なぜそれでよかったのかとかね。ただそういうもろもろをちゃんとまずは概要として書いていただいた上で結果としてこういう。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:02:26	パワーポイントになりましたならわかるんですけども、結果こうになりましたという説明なので、我々としては何か聞いたことに対して本当に答えてもらってるかどうかがよくわからないとそういうことを言いたいですよね。
1:02:36	なので、ちょっと私からの提案ですけどもローマ数字の1ページの、今回説明するところのね。
1:02:43	該当箇所ということでパワーポイントのページだけが書いてあるんですけども、ここにちゃんと、要は回答の方向性を、まず概要として書いていただいた上で、本編資料説明していただけますか。
1:02:54	でないのですね、例えば、1個目で言うと例えばなんですけども、地震発生層の方の話ですね、前回17キロだったら15キロにしました。これは、
1:03:04	結果は確かに我々そう、そのような思想で言ってるんですけども、もともとはでも17キロだとおっしゃってたわけですよ。
1:03:11	そこをなぜ、そうしたんですかということですね、本文中少し直しましたよという説明はあったのかもしれませんが、そこは言われたから直したのではなくて、やはりこうこうこういう根拠だなので、
1:03:23	ということをちゃんと概要として書いていただいた上で、じゃあ、もともと何キロだったら何級に直しますというですね、ことを書いていただかないと、これまた前回の資料左側において右側に今回の資料置いて何がどう変わったんですかっていう比較をしないと我々わかんないですよ。
1:03:39	結果だけお示しいただいてるので、
1:03:41	ただまずそういうものを作っていただけますか。
1:03:44	これ私からの提案ですがいかがですか。
1:03:47	電話どうにもです承知いたしました。はい。その方が円滑に進むと思いますので。はい。
1:03:58	佐藤ですけどもちょっと補足ですけどね
1:04:03	前回の審査会合で言ったかもしれないけど言わなかったかもしれないですけど。
1:04:07	規制委員会のね、例の令和2年12月16っていう基準地震動の策定に係る審査の基本的考え方っていうのを、一応示してるわけですよ。その中でレシピPに示されていない方法をとる場合はそれはちゃんと。
1:04:22	その方法については十分な科学的根拠を必要ですねっていうふうに申し上げてるところなんですよ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:04:29	なので、今回国交省にしてもそれから檀ほか 2015 にしてもね、そこはやっぱりちゃんと説明をね、やっぱりしてもらわないと、これはなかなかちょっと次のコメント回答ってわけにはいかないの。
1:04:42	ここをちゃんと資料をやっぱりちゃんと充実させていただいて、皆さんの考え方を改めて欲しいと、こういう趣旨なんですよ。
1:04:49	よろしいですかね。
1:04:53	ちょっと電源開発の儀間です。承知いたしました。
1:05:23	すみません。規制庁長井ですけど私の方からもう 1 件標準応答スペクトルの方のですね。
1:05:29	話で私からのコメントで対応していただいたり、解放基盤表面のは形とか、
1:05:35	今回載せていただいて、
1:05:37	これ、こういうことが少なく私が確認していくに至ったのは J R R III の当初の算くらいだったと記憶してるんですけども。
1:05:49	少なくとも 0.02 秒の最大加速度を叩くあたりが水深方向で、時間が変わってるんですけども、これに関して、長く分析とか確認はされてますか。
1:06:09	電源開発の加賀田です。
1:06:12	すみませんちょっと聞きづらい点があったので、もう一度コメントをお願いしたいんですけども。はい。ちょっと先ほどページを確認しないまま、記憶でしゃべってたところもページを五つ改めてコメントします。
1:06:24	まずは、一応乱数の方、
1:06:28	でいきますと、
1:06:29	8 ページが、これが地震基盤相当面に作った葉系であって、
1:06:35	19 ページが、解放基盤表面上げたときの算ですけども。
1:06:41	こちらの場合、鉛直動を見ても水平動を見ても、
1:06:46	最大加速度を叩く時間が変わってると。
1:06:50	で、同じ実観測記録の方も見ると、実観測記録については鉛直度はほぼ同じところのように、
1:06:59	見受けられるんですけども水平動は、11 ページと 20 ページを見比べると、
1:07:06	ちょっと違うピークをたたっているんじゃないかというふうに見受けられます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:07:12	これに関して何らかの分析確認をしていますかということをお聞きしたいと思って今聞いております。
1:07:22	最大加速度値の時刻について、
1:07:27	というコメントであったと思いますが、すみません等、具体的な分析検討はしておりません。
1:07:35	はい、わかりましたありがとうございます。
1:07:55	はい。規制庁の岩田ですけれども 28 ページで 1 点確認をさせていただけますか。
1:08:09	よろしいですかね。はい。この基本ケースというのが上の図にあってそこから二つに分かれていてですね、アスペリティの西端を基準に断層面を敷地に近づくように配置というのと、
1:08:22	調査に基づく断層範囲の西端を基準にアスペリティをし、敷地に近づくように配置ということでそれぞれ A が書いてあるんですが、
1:08:33	これ二つ書いてあるんだけど 29 ページを見るとこれは、
1:08:38	1 個しかないわけですか。
1:08:48	電源開発の小高です。28 ページの左の図は断層位置の不確かさを考慮したケースになりまして、29 ページの表と対応してるのは上から、
1:09:01	基本ケースのサービス西谷なんて、ああわかりましたわかりました左側が断層位置の不確かさで右側がアスペリティ位置の不確かさ。そうですね。はい、わかりました。
1:09:18	で、
1:09:22	あまりやわかりました。とりあえず、私は結構、
1:09:24	補足ですけどねこれねモデルと、この検討係数がちょっと固体費がねわかりづらいんですよ。なので例えばモデルと、この検討ケースなんか番号をつけていただくとかねなんか、
1:09:36	そうするとわかりやすくなるんじゃないかと思うんだけど。
1:09:41	これ見てくれの話ですけど。
1:09:45	はい。この提言開発オダカです。確かにケースが多いので、ちょっと番号と振って、わかりやすくなるように、工夫したいと思います。なかなかいっぱいね、前回と違って多くなったので
1:09:57	ちょっとモデルとの対応も含めてね。
1:09:59	少し見てくれの問題ですけども、お願いします。
1:10:05	すいませんナガイですけど 1 点ちょっと聞きたいと思ってた他の話があるんですわ。飛んでしまって忘れたんで、改めて確認させてください。内陸地殻内地震の本資料の 81 ページ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:22	こちらの比較で、
1:10:24	短周期レベルだけを強調されてますけども、これを本社の医師として本当にこれだけでいいんですか。
1:10:34	といいますのも、3.2 と 3.25 ジャタイプ大差がなくて、これだけの数字見たら、B を選ぶというのはあまり積極的に、
1:10:44	我々も受け入れられないんですけどもこれだけであれば、
1:10:49	これちょっと私も言おうと思ってたんだけど、
1:10:53	どう、何で方法Bを採用したかっていうその根拠がねちょっと手薄薄いんじゃないかなと思ってんですけどね。
1:11:02	今皆さん今田が言ったように短周期レベルのところに下線引っ張っていて、そこだけ強調してるんですけども、これを選んだ理由がねちょっと薄いんじゃないかなと。理由づけがちょっと薄いかなと思ってんですけども。
1:11:17	そこはどうですか。
1:11:25	電源開発の小高です。81 ページはこの案周期レベルの値としましては、このキャプションの1ポツ目で示しています通り、
1:11:35	概ね同程度というふうには考えていましてで、2ポツ目の方で
1:11:41	適用の観点で2ポツ目は記載しておりまして、方法は、レシピの方法は、
1:11:50	第3ステージであれば、横瀬縦税、横ずれ逆断層等のすべての自治体、断層タイプに対して用いることができるものの、
1:12:00	地震動評価にj能力オカ量は横ずれの知見を持ち、
1:12:05	ただ、それに対して、魔法びんまたは他は、長大な逆断層を対象とした知見で、
1:12:13	これを踏まえまして短周期レベルは同程度で、
1:12:19	断層の適用につきましては長大な逆断層の知見を用いた方がより適切であろうというふうに考えまして、
1:12:28	今回檀ほか2015に基づいて設定したという考えになっております。
1:12:36	何かパラメータの比較ってあまり、何ていうか重要視しておらず壇他2015はそもそもそういう断層タイプの観点から検討した。
1:12:47	文献等でそれを採用しましたっていうふうにしかちょっと聞こえないんですけども、本当に本当にそういう理由だけでいいですか。
1:12:58	ここはもう少し説明する必要があるんじゃないかな。
1:13:03	はい。
1:13:04	電源開発のオイヌマです。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:13:07	81 ページを、
1:13:10	見ていただくと、まあまあスぺリティモデルで評価してますので、A s p e r i t y のことを載せてるんですけど、当然
1:13:20	アスペリティの面積比であればレシピの方が大きいと。一方アスペリティの応力降下量は、
1:13:28	本田ほかの大きい中計形になってまして、今3周期レベルはアスペリティの面積と、応力降下量を加味した、
1:13:36	評価の指標になりますので、それで見ると概ね同程度ですけど若干檀の方が上回ってるっていうことと、あとあくまでレシピはなんすかね。
1:13:49	新たな知見が入れるまでの暫定値というような扱いもあったことも踏まえまして、
1:13:53	広報Bを採用したっていう経緯。
1:13:57	です。はい。以上です。
1:14:00	さっきの、国交省の話もそうなんですけどね、ここもねやっぱり採用した理由についてはね何かもう少しその丁寧な説明が、
1:14:07	私は必要なような気がしますけどね。
1:14:10	ちょっとその2点だけはもう少し資料の充実説明性の向上を図っていただきたいと思っておりますが、いかがですか。
1:14:19	前回等にもです。今日のアリリングのやりとりを聞きまして、
1:14:24	そう思いましたので、
1:14:26	充実化を図りたいと思います以上です。
1:14:29	ナガイですが今説明されたようなことがねわかるような書きぶりに調整、今のだったら、結局三つのパラメータを見てるわけですよ。それがわかるような、
1:14:38	書きぶりにしていただかないと、やっぱり、
1:14:41	うん、これじゃ弱いよねもやってっていうふうになってるので、
1:14:44	やはり今回、
1:14:47	できることはここまではある程度我々も、
1:14:50	OKですねその先の計算がこれを3年度進められなくなってしまうと思いますので、できる限りですね、御社の考え方がわかるように、
1:14:59	説明していただいて、
1:15:01	この3連動会社すでに泊。
1:15:05	ある程度話をしていてと森井も、
1:15:07	またちょっと違ったやり方してますよね。そういうのも横目に見つつです。御社の考え方を、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:15:13	しっかり書いていただければと思います。よろしくお願いします。
1:15:19	風間です。承知いたしました。
1:15:38	規制庁の岩田ですすみませんくどいようですが先ほどの28ページなんですけどね、今回断層位置の不確かさケースということとアスペリティ1t位置の不確かさケースということに分けてやりましたということなんですけど、
1:15:49	例えば先行サイトで言うと、例えば左側の断層位置の不確かさケースを考慮したケースということで、断層面の左端をですね、断層位置、地表面で見えてるところの赤い線なんですけどね。
1:16:03	これとそろえてやってるような事業者もあったわけですね。そういったことも踏まえてですねこうしましたということの説明ができるようにしといていただくか、もしくはどのように考えるかってのを考え直していただいても結構ですけども、そこは
1:16:15	必ずしも皆さんこのやり方ではやってるわけではないので、
1:16:20	これは必ず聞きますんで答えられるようにしといてください。
1:16:43	電源開発の安田です。先ほどのコメントですね、断層域の不確かさの、 の場合ですね基準点を、
1:16:52	この上端の痕跡の3.4キロ西端に合わせなかった理由についても、きちんと分かるように、説明して欲しいと。
1:17:03	ということかと思います。今回ですね、明日PTが、敷地の地表の痕跡3.4キロに対して、
1:17:12	それよりも大きく、もうすでに基本ケースの位置で設定しています。
1:17:17	不確かさを考慮するときに
1:17:20	どういったパラメータを変更したときに、地震動評価にへの影響が大きいかっていう観点で、基本係数で基準にしまして、変更するパラメータを置かして不確かさを考慮していると。
1:17:34	いったことになっておりますので、今回の断層位置の二つ加算についても、
1:17:41	もともとの基本ケースの、この断層審議モデルですね、それに合わせて、背景領域も寄せるだけ、敷地側に寄せたという考え方で設定してございます。
1:17:54	ね。
1:17:55	1個で進むような気がするんですね。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



1:18:03	今説明されたようなことも含めてねやっぱり皆さんの考え、考え方は、やっぱり資料に書いてもらわないと、最後資料しか残らないすからねなんかね議事録も残りますけど。
1:18:13	最後やっぱり資料に書いてる事しかやっぱりね。
1:18:16	よって立つものはないのでそこはやっぱりちゃんと考え方変えてもらったほうがいいと思いますけどね。
1:18:23	電源開発麻生です。承知いたしました。
1:18:28	むやみにいっぱい作るって問題ですね。
1:18:31	あとは何かありますか。
1:18:33	どうぞ。
1:18:40	規制庁の。
1:18:44	社長。
1:18:45	すいません。
1:18:50	規制庁の浦社長ちょっと確認したいことがあります
1:18:55	資料1の39ページの方が速度モデル当局感想で40ページの方で、
1:19:01	議論の手法で、
1:19:03	39の方が $Q_s$ $Q_p$ を分けて書いてますが
1:19:08	40の方が9で、
1:19:11	だけ書いてこれきOSで理解していいですかキューピーが同じ或いは2杯。
1:19:17	どちらでしょうか、確認いただき、
1:19:30	電源開発の安田です。
1:19:33	40ページの9は $Q_s$ の値を記載させていただいて、
1:19:38	そのとき理論計算時のキューピーの方が同じ値で、 $Q_s =$ 協議或いは $Q_s$ 局以降に、2%の $Q_s$ と違って使ってます。
1:19:51	電源開発の平と申します。ちょっと今よく、
1:19:56	取れなかったもの、感じもあるんですけども、基本的に級別の値で代表さしております、一応 $Q_s$ $Q_p$ は同じ値という前提で、
1:20:06	評価しますで、
1:20:10	$Q_s$ と $Q_p$ と比較しますと、A等級別の方が、保守的な評価ということもありまして、評価としてはこれでいいだろうというふうに考えております。
1:20:24	はい、ありがとうございました。
1:20:26	もう1点のコメントを何か先ほどの3年と、連動の方で何か
1:20:32	壇の手法を採用するウーの方で何か、どうして男性を受けて、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:20:37	短縮レベルを中止して、短縮出して短縮やればそんなねえな共通というのは、後の佐竹であんまり説明にくいじゃないかと。
1:20:47	もう一度、現在 2 基も、
1:20:49	戻る。
1:20:50	すると。
1:20:52	なぜ 3 連動を考慮する必要あるかですね。もし一番近いところで一番近い地震動を、監視機能を中止して傾向ですから、
1:21:01	3 連動を考慮すると何か、例えば、
1:21:05	次病院長より永石北井の方が大きくなるかどうかを確認のために、
1:21:11	3 連動も中止するか。
1:21:13	何か方向性がないでしょうか。
1:21:19	ん。
1:21:22	そうするとこの面から見ると、例えば、
1:21:25	単式だけ端子出るだけじゃなくても面倒大きいの方はもう採用するも考えられる。
1:21:31	うるいろいろな。
1:21:32	何か方針の方がはっきり。
1:21:35	明確してない。
1:21:37	ドッカーンと感じてます。
1:21:42	点検開発の中ですみませんちょっと聞き取りづらかったなので、もう一度お願いいたしますか。
1:21:49	3 年と、もう 1 回、もし遅れちゃうと、3 年となって 3 連動を考慮するんですね。
1:21:57	距離が。
1:21:58	若干離れるにもかかわらず、草粘土を中止する 6 件が何らかの理由ありますねなんか
1:22:08	普通で一番近い断層で、大きめ設定して今回の方が不重要な断層を設定して、なる形でそこまで地震動、
1:22:18	レベル感が、多分
1:22:21	担保すると考えてますが、今回、
1:22:24	この連動を考えるとが連動を考えるの理由として、
1:22:35	うん。
1:22:37	弁当考え理由を考えて、そうすると最後の伊達丹の手法を使うとか、
1:22:44	国土のモデルを使うとか、何か理解しやすいと思いますが、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:23:00	ナガイですか補足数と、検討用地震として、この3連動を選定する理由を明確に説明してもらいたかつそれをクリアにして欲しいというリクエストだと思いますが資料の中で説明できるのであれば、
1:23:14	説明していただけますか。
1:23:26	はい、江藤電源開発の小高です。
1:23:30	資料、資料1の方の8ページの方の2ポツ目の方ですねなぜ、大隈3年度を検討用地震に上げているかというところに関しては
1:23:43	記載をしております、
1:23:46	当該断層松田竹村のデータセットの適範囲外となり適切にMを評価できないためのMΔ図の第通りの方法による敷地やご逝去の比較ができないが、
1:23:59	連動を考慮した長大な断層であり、敷地に及ぼす影響が大きいと考えるため、検討地震に選定したものとなっております。
1:24:09	いかがでしょうか。
1:24:13	はい。
1:24:14	連動の位置付けは、すいません。
1:24:18	私は途中で入ってきました。それが全体フローしていけなかったわかりました。
1:24:25	これは多分別途、
1:24:27	新沢海道とかどこなんか書いてありますが
1:24:31	特に特注のような検討時が、より長いやや長い地震動、
1:24:37	もう交流ちゃうからそのためには、多分今までの審査の連動もちゃんと考慮してくださいと、何かちゃんと見てますから。
1:24:46	正しい。多分、
1:24:49	この子の理解、
1:24:51	多分今回も同じ日付と理解したんですけど。
1:24:54	やはりこのもう一つ言われますがさっきの、
1:24:58	離脱の方が見、
1:25:01	これで結構です。
1:25:10	すいません1点だけね、F14のF14でね。
1:25:15	これ横づ0っていうのはもうわかってはいるんだけどこれ実は資料の中でどこにもね書いてはないんだよねなかったんですよ。前回の資料で、
1:25:24	横ずれでどっちの横ずれなのかってのも、想定してるものは書いてないし、なんかね横ずれって、もう我々、概念的にはもうわかってはいるんだけど、パラメータを見て、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:25:34	どっかに書いてもらえませんかなんか明示的に書いてもらえませんか何か資料に。
1:25:43	電源開発の中でさ承知いたしましたに書いてないと思わない。思わなかった。皆さん。
1:25:50	私はそう書いてないんだけどもうパラメーター見て当然、
1:25:55	当然のものと思ってはいたんだけど、
1:25:58	すいません。
1:26:00	資料、電源開発の高津の資料の中に記載はないかと思うので追加いたします。はい。
1:26:13	すみません誰ですけどそういう立場私も思い込みがなかったかもしれないですけど、横ずれこれ応力場考えた左横ずれでいいんですよね。
1:26:34	電源開発天野です。左横ずれの断層ということで設定しています。
1:26:40	含めた表にちゃんと書いてもらえませんか。
1:26:53	アマノです。承知いたしました。
1:27:00	そんなところですか。
1:27:03	はい。
1:27:05	はい規制庁イワタですけども大体こちら側からはですね、確認事項は以上になります。従って少し
1:27:13	今の資料をですね、もう少し変更点も含めて、わかりやすくすることと、またきちんと皆さんがどのように考えて、このように変更してね、変更したのかと、そういった観点ですね。
1:27:24	それをもう少し追記をしていただいた上で、もう1回見せていただけませんかでしょうか。
1:27:38	答弁会サカモトでございます。今のご指摘、承知いたしました。今日いただいたコメントは、今おっしゃっていただいたことに尽きるというふうに思ってますので、科学的根拠等も含めて、
1:27:50	わかりやすく記載した上で事業者の考えがわかるような資料にちょっと修正させていただきたいと思います。
1:27:55	どうもありがとうございました。
1:27:57	はい。よろしく願いいたします。うちの方から以上ですが、電源開発から何かありますか。
1:28:05	はい。丁寧かつタカオカでございます。こちらも以上です。
1:28:11	本日の確認事項につきましては、ホワイトボードの記載の部分はまた後程お送りいたします。はい。猪狩について、本日はどうもありがとうございました。お疲れ様でしたヒアリング以上にしたいと思います。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。